

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 商業販売統計 (2012年7月)  
 ~2ヶ月連続で前月比減少~

発表日2012年8月30日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
 TEL : 03-5221-4528

(単位: %)

		商業販売額										コンビニ販売額	
		卸売業		小売業		大型小売店			百貨店		スーパー	前年比	既存店 前年比
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比		
11	1月	3.3	4.0	4.6	3.7	0.1	3.6	1.5	▲0.7	▲1.1	▲0.5	7.1	4.5
	2月	5.3	0.8	7.2	1.1	0.1	2.1	3.2	0.5	0.6	0.5	8.5	5.9
	3月	▲1.3	▲9.3	1.2	▲9.1	▲8.3	▲8.1	▲4.5	▲7.4	▲15.0	▲2.9	9.1	7.2
	4月	▲2.6	3.6	▲1.7	3.1	▲4.8	3.6	1.1	▲1.9	▲1.8	▲1.9	3.0	1.0
	5月	1.3	0.7	2.3	0.0	▲1.3	2.9	0.8	▲2.5	▲2.6	▲2.4	7.3	5.1
	6月	3.1	1.4	3.8	1.3	1.2	2.5	2.5	▲0.5	0.1	▲0.8	10.9	8.3
	7月	2.3	▲0.2	3.0	▲0.2	0.6	▲1.2	1.8	0.8	▲0.4	1.5	11.4	8.9
	8月	3.1	▲0.9	5.2	▲0.6	▲2.6	▲0.7	▲1.8	▲2.6	▲2.1	▲2.9	9.1	6.6
	9月	0.3	▲1.5	0.8	▲1.9	▲1.1	▲1.3	▲2.4	▲3.6	▲2.8	▲4.0	▲1.8	▲4.1
	10月	1.1	0.7	0.8	0.4	1.9	0.7	▲0.5	▲1.4	▲0.8	▲1.7	16.4	13.5
	11月	▲2.3	▲0.9	▲2.4	▲0.5	▲2.2	▲1.3	▲1.6	▲2.5	▲2.2	▲2.7	10.5	7.3
	12月	▲0.8	1.8	▲2.0	1.7	2.5	0.7	0.6	▲0.3	0.7	▲0.9	7.4	4.0
12	1月	▲2.0	2.1	▲3.5	1.2	1.8	3.1	▲0.1	▲1.2	▲1.2	▲1.2	4.9	1.6
	2月	▲0.1	1.3	▲1.3	2.2	3.4	2.0	1.3	0.2	▲0.5	0.6	8.8	4.4
	3月	2.9	▲4.3	0.5	▲4.9	10.3	▲1.2	6.1	5.1	14.2	0.5	4.4	0.3
	4月	1.7	1.7	0.3	1.9	5.7	▲0.4	0.1	▲0.6	1.5	▲1.6	10.3	6.2
	5月	2.5	0.2	2.1	0.1	3.6	0.7	▲0.1	▲0.8	▲0.9	▲0.7	6.0	1.7
	6月	▲2.8	▲2.0	▲3.8	▲2.0	0.2	▲1.2	▲2.2	▲2.6	▲1.2	▲3.3	1.5	▲2.7
	7月	▲3.1	▲1.9	▲3.9	▲2.4	▲0.8	▲1.5	▲4.0	▲4.4	▲3.3	▲5.0	1.0	▲3.4

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

## ○ 個人消費に陰り?

経済産業省から公表された7月の小売業販売額は前年比▲0.8%と8ヶ月ぶりに減少し、市場予想(▲0.1%)を下回った。季節調整済み前月比でも▲1.5%と、6月の▲1.2%に続いて大きな減少となっており、弱い結果である。個人消費はこれまで好調な推移が続いていたが、足元で陰りが始めているように見える。これまで好調だったことの反動や、雇用・賃金の回復の鈍さ、自動車販売の追加的な押し上げ効果の縮小などが影響している可能性がある。なお、7月の小売業販売の水準は4-6月期を2.0%も下回っており、7-9月期のGDPベースの個人消費が減少に転じる可能性も否定できなくなってきた。

## ○ 業態別の動向

業態別の動向を見ると、今月最も押し下げ寄与が大きかったのが自動車小売業であり、前月比▲5.4%(寄与度▲0.8%Pt)と落ち込んだ。5、6月に急増した反動の面が大きく、水準は高いままだが、個人消費を追加的に押し上げる力は縮小し始めている可能性がある。なお、エコカー補助金については、8月半ば頃から申請のペースが弱まっており、補助金の終了時期が10月にずれ込む可能性が出てきた。前回(2010年)の補助金終了直前に生じたような急激な販売の盛り上がりは、今回は発生しない可能性が高いだろう。前回の補助金終了時の大混乱の学習効果で購入を前倒しする消費者が多かった(駆け込み需要の分散・早期化)ことや、補助金終了が迫ってきたことで、納車に時間がかかる人気車種は既に補助金の適用ができないことなどが影響しているのだろう。

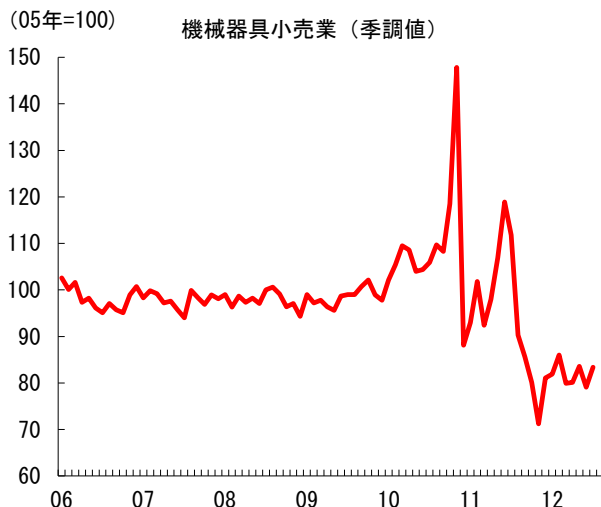
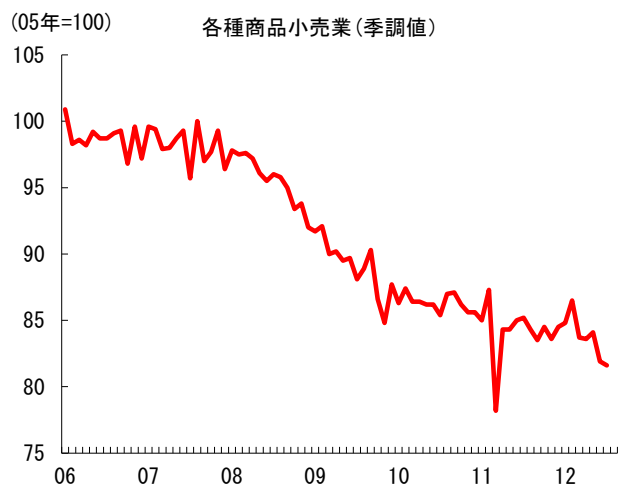
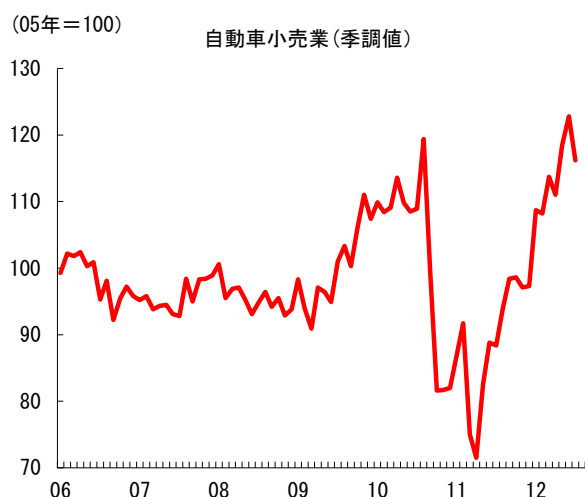
自動車以外の業態も全般的に低調だった。百貨店を含む各種商品小売業は前月比▲0.4%と、6月が▲

2.6%と大幅に落ち込んだ後にもかかわらず減少した。また、織物・衣服・身の回り品小売業は前月比+1.3%と増加したが、6月に▲4.5%と大幅減だった後には戻りが弱い。6月は、気温が低めだったことや台風・豪雨等の天候不順が影響して客足が鈍ったことから悪化していたが、7月も冴えない結果に終わっている。百貨店の一部でセール時期が後ずれしたことが押し下げ要因になったことや、月前半の天候不順などが7月の数字を押し下げている面もあると思われるが、基調としてもやや弱まっている可能性がある。

機械器具小売業は前月比+5.4%と増加したが、前月に減少（▲5.4%）した反動の面が大きい。機械器具小売業を季節調整値で見ると、昨年夏以降の急激な落ち込みには歯止めがかかっているが、水準は依然低く、底ばい状態となっている。そのほか、燃料小売業も落ち込んでいるが、これはガソリン価格下落の影響の面が大きいと思われる。

## ○ 個人消費に逆風

このように、足元で個人消費の改善に陰りが見え始めているが、先行きについても懸念材料は多い。最大の懸念はやはりエコカー補助金の終了だ。補助金は10月中には予算が尽きるとみられる。前述の通り、終了直前の急激な販売の盛り上がりは今回は発生しない可能性が高そうだが、これまで需要が相当程度先食いされていることには変わりない。エコカー補助金終了後の自動車販売が大幅に落ち込むことは不可避だろう。個人消費は、一時的に悪化する可能性を見ておく必要があると思われる。また、雇用・所得の改善が限定的なものにとどまっていることや、一部指標で消費者マインドの改善に頭打ち感が出ていることなども懸念材料だ。先行きの個人消費は慎重に見ておく必要があるだろう。



(出所) 経済産業省「商業販売統計」